

[ホーム](#) > [市民レポーター](#) > **金塊？を求めて西部へ！**

## 金塊？を求めて西部へ！

第一土曜日の7月3日昼下がりのことです。  
『西部地域おしゃべりサロン』、いつか一度は参加してみたいと思っていた集いに出席しました。  
かつて、アメリカの西部で金塊が採掘され、一攫千金を追い求めて、人が集まったゴールドラッシュのころは金塊がお目当て、こちらは「人と人のふれあいの場」、「顔が見えるお付き合い」というもつとでっかい金塊を求めて西部地域センターを訪れました。

出席者の思い思いの自己紹介から始まりました。



この会は平成19年2月から今日まで50回以上も続いています。きっかけは市市民部・まちづくりサポートセンター及びワーカーズコープ主催の地域懇談会からだそうです。滝山団地内の独居や引きこもりの高齢者をなんとか家から一歩外に出してもらい、一緒に歌を歌いましょう、折り紙や切り絵をして楽しみましょう・・・

という発想から、近隣の人たちのふれあいの場を作るのが発足の趣旨でした。この熱い思いは4年目の今もひしひしと伝わってきます。

最初の一年は、西部地域センターの指定管理者であるワーカーズとの共催でスタートし、平成20年から「ミニデー」として自立したそうです。



自己紹介の後、歌です。「高原列車は行くよ」「青い山脈」「故郷」と続きます。本日のゲストの佐藤さんのフルートの伴奏つきです。

「高原列車は行くよ」の作詩家の丘灯至夫は療養先の猪苗代湖畔から磐梯山のふもとまで走る軽便列車の中からの発案の詩だそうです（朝日新聞）歌う前から、この話で持ちきりでした。

「歌は世につれ、世は歌につれ」といいますが、昭和38年にヒットしたこの曲は、「高校三年生」とともに、当時の自分を思い出させます。

城水さんの南沢湧水お茶の会の話、堆朱さんの新しい話し合う会の話、毎朝の健康体操のこと・・・話は尽きません。2時間があっという間に過ぎてしまいました。



今後の予定は？と代表の乾さんに訊くと、健康マージャン、縁側サロン、フラワーセラピー、庭自慢園芸、お食事会・・・などなど、夢とロマンが、一挙に森の中の泉から噴水のように天空へ向かって吹き出るように、アイデアが矢継ぎ早に出てきます。

「顔が見えるふれあい」・・・西部地域センターに根付いた「まちづくり」・・・彼女の使命感とエネルギーがそうさせるのでしょうか。脱帽！脱帽！！

後日、この会のスタートの時、直接係わってきたワーカーズの中村さんに当時の事を思い出してもらいました。・・・最初は多世代を対象にした交流の場づくりをしていきたいという思いがありましたが、まずはシニア世代の方々が主体になって楽しめる場づくりからスタートすることになりました。それからは老化防止にもつながるウォーキングをしたり、脳トレーニングやゲーム感覚の遊びを企画したりもしました。乾さん、丸山さん、笹山さんなどが中心となって、今日まで続いてきた事は素晴らしいことだと思います・・・

・・・そんな皆さんの強い絆があれば「子供とシニアの交流」、「おしゃべりサロン」と他団体とのコラボ等など、多世代交流の場づくりが実現できる日も近いのではないのでしょうか。



南部地域センターの「まちづくりは種まきから」から始まって、東部地域センターの「東部ふれあい朝市」、今回の西部地域センターと、ワーカーズのスタッフの皆さんの地域でのまちづくりのご苦勞ぶりを、市民記者として、拙い筆致で聞いて書いてきました。施設の管理は単に施設管理の番人ではない、アンテナを広げて地域のまちづくりのニーズを感知し、企画して実行する仕掛け人でなければならぬ、という大きなミッションを背負って頑張っておられます。「住みいいまち、住み続けたいまち」という山の頂きへ向かって、時間はかかるが、一歩一歩登って行きましょう。私たち近隣の住民も及ばずながらお手伝いします。

市民記者ききムーナ記